

## ●第 98 回日本生理学会の大会報告

第 98 回日本生理学会大会

大会長 名古屋市立大学医学研究科 脳神経生理学 飛田 秀樹  
名古屋市立大学医学研究科 細胞生理学 橋谷 光

第 98 回日本生理学会大会は、第 126 回日本解剖学会総会との合同大会として、令和 3 年 3 月 28 日(日)～30 日(火)の会期で WEB 開催され、5 月 10 日までのオンデマンド配信の終了をもって閉会いたしました。大きなトラブルもなく盛会のうちに大会を終えることができましたのは、ひとえに会員の皆さまのご協力のおかげであり、改めて御礼申し上げます。

当初は名古屋国際会議場での現地開催を予定しておりましたが、コロナ感染の状況をふまえて演題登録終了後の 10 月に急遽 WEB 開催に変更させて頂くこととなりました。参加者の皆様へのご案内においては配慮の行き届かない点も多く、多大なるご不便、ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

今回の合同大会では、大会テーマの「Back to Basic 一根深柢固」のもと、特別講演 6 講演、大会企画シンポジウム 17 企画、企画シンポジウム 34 企画、国際企画シンポジウム 2 企画、他学会連携シンポジウム 5 企画、若手シンポジウム 3 企画、教育プログラム 4 企画、緊急セッション 2 企画に加え、一般演題(口演 159 演題、ポスタープレゼンテーション 462 演題)と学部生セッション 82 演題が発表されました。WEB 開催への変更にとともに、アウトリーチ活動、市民公開講座、懇親会

およびグループディナーは中止といたしました。

期間中の参加者総数は、両学会の会員 1,305 名、非会員 167 名、大学院生 243 名を含む計 2,099 名でした。至らぬ点は多々ありましたが、プログラム集を事前に皆様のお手元にお届けできたこと、現状のニーズに合致した教育関連セッションを提供できたこと、非対面の制約下でも活発な議論が行われたことなど、大会長として最低限の責務は果たせたのではないかと存じます。また 6 月 11 日まで実施した参加者の皆様へのアンケートでは、オンデマンド配信は概ね好評であり、安堵いたしております。詳細な分析結果等については、理事会等で報告させていただきます。

運営に関しましては、コロナ禍での不確定要素を考慮して、大会参加費を例年より若干高く設定させていただきました。WEB 開催にもかかわらず企業セミナー 8 社や広告掲載 32 社など企業各社からご協力を頂いたこともあり、結果的には健全な収支状況をご報告できることになりました。この場を借りまして、参加者、関係者の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。

引き続きコロナ感染症による様々な影響が懸念されますが、会員の皆様のご健勝、ご活躍をお祈りいたしまして、第 98 回大会の報告とさせていただきます。